

# 飛騨市による取組

## 地域特性を活かした観光振興

### 取組の概要

- 飛騨市では、高齢者等が有する空き部屋と、住民が有する農林漁業等のスキルを共有する「シェアリング・エコノミー」によるまちづくりを推進し、交流人口の増加と高齢者の生きがいづくりを促進するための仕組みを構築

### 【具体的な取組】

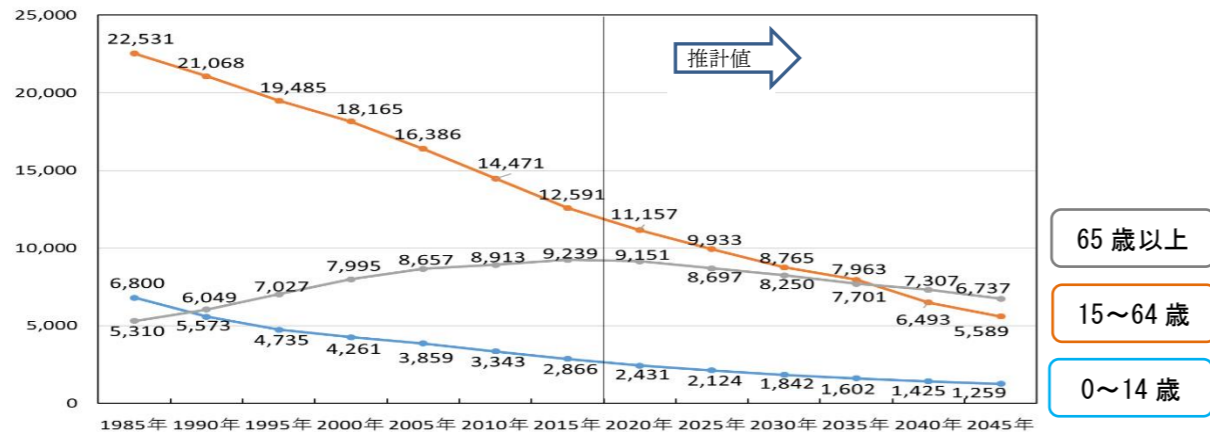
- ① 飛騨市から民間企業に委託し、宿泊者と民泊提供者の調整を担う中間支援組織を設置
- ② 地域住民への民泊説明会を開催し、空き部屋を民泊として活用することと、民泊提供者のみならず、地域で宿泊者をおもてなしすることを提案
- ③ 民泊提供者と既存の宿泊施設が協働し、既存の宿泊施設にも経済効果が波及
- ④ 地域全体で宿泊者を受け入れ民泊を経験する、民泊モニター体験会を開催

## 飛騨市杉原地区の現状

### ➤ 飛騨市の現状

- 周りは高山市、白川村、下呂温泉、立山黒部、上高地など、大観光地に隣接
- 将来人口の急激な減少が見込まれる “人口減少先進地”

○将来の人口見通し（飛騨市）



出展：総務省「国勢調査」、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（平成30年3月推計）  
 （注）2015年の年齢3区分別人口は、年齢不詳を案分した人口

### ➤ 特に旧宮川村杉原地区は…

- 世帯数 40、人口 98 名の消滅が危惧される最前線の地域
- 子育て世代の市街地流出による著しい過疎高齢化
- 訪れる観光客に対しての慢性的な宿泊施設と担い手の不足
- 観光コンテンツの埋没、宿泊施設の不足による交流人口の減少

しかし、実際に目を向けてみると…

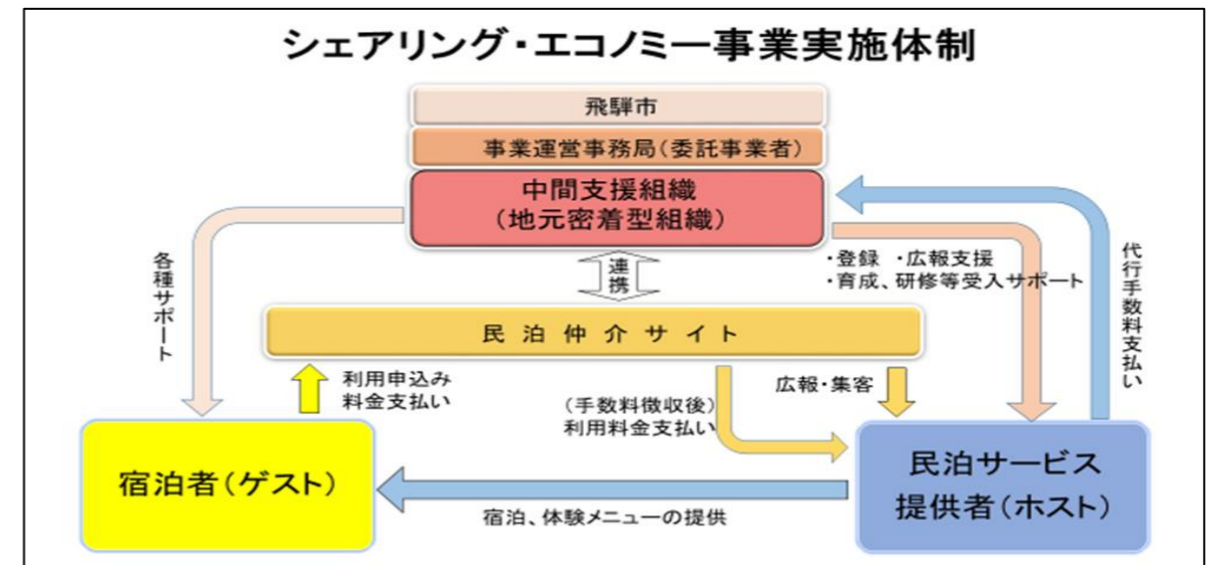
- JR 杉原駅が集落の中心にありアクセス良好
- 宮川の鮎は全国品評会にて受賞歴もあるブランドカ
- 部屋数の多い広い家が多い
- 何より住民が元気

光るものはある

## 取組内容

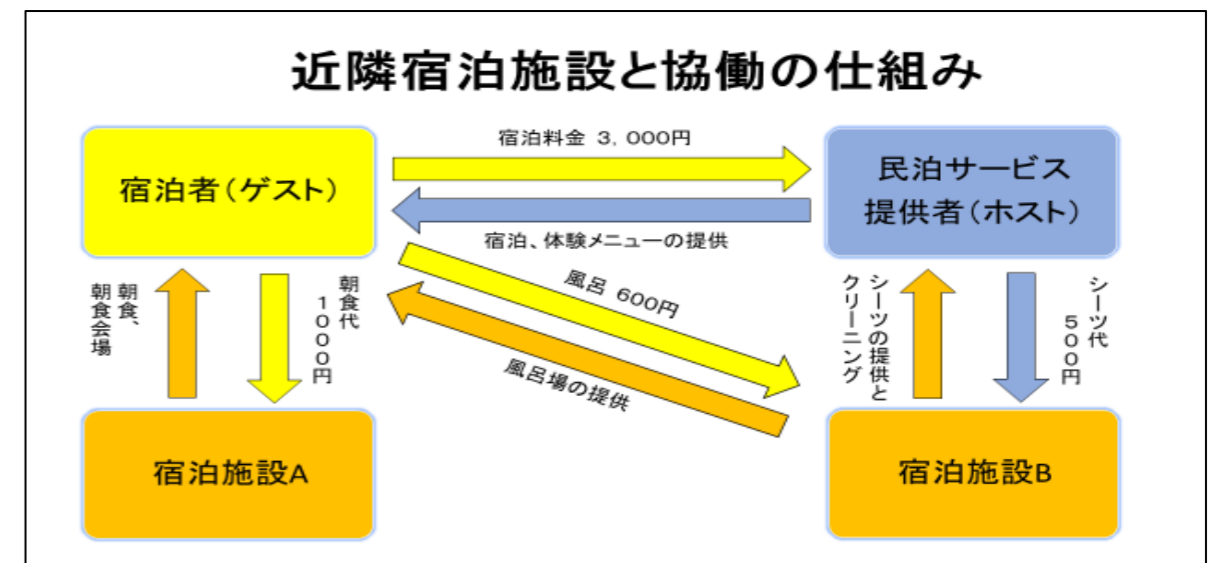
### 1. 民泊サービス提供者と宿泊者をつなぐ「中間支援組織」の構築

- 予約受付や他施設との調整といった、民泊サービス提供者（ホスト）が煩わしいと感じやすい業務や、ホストとゲストに対するサポートを担う中間支援組織の設立
- 地域住民を対象に民泊説明会を開催し、ホスト【ヒト】と提供できるスキル【モノ・コト】を掘り起こし



### 2. 既存宿泊施設との協働

- 既存の宿泊施設を利用し、布団のシーツや入浴、朝食の場を提供することで、それぞれにお金が落ちる仕組みを構築すると共に、経営圧迫されるかもしれないといった不安や不満を解消



### 3. 民泊モニター体験会（宿泊費無料）の開催

- 中間支援組織と地域住民で、募集から集客、当日の受入れまでの一連の運営を行い、ホスト及びゲストの双方の不安を解消する体験会を1回開催

## 取組のポイント

### ▶ 民泊サービスの認知度向上

- ・民泊説明会のチラシを事業範囲の住居全戸に配布(40軒)
- ・民泊モニター体験会を開催し、住民の民泊に対する認知度向上と、見知らぬ人が自宅に宿泊する抵抗感を軽減
- ・地域に根付いたイベントの開催時に、イベント民泊を行い、ホスト以外の住民への認知度が向上するとともに、交流する機会が増加



民泊説明会(ワークショップ)

### ▶ 民泊サービスを提供する「ホスト」と提供する「スキル」の掘り起こし

- ・チラシや電話で周知するだけでなく、住民の自宅を訪問し、ホストになることを交渉
- ・ワークショップ形式の民泊説明会を1回開催し、この地域に何が資源として存在し、何が資源となり得るのかを、参加者全員で共有
- ・民泊モニター体験会で宿泊者に提供するおもてなしについて、研修会を2回実施し、意見を収集し全員で共有

### ▶ スマートフォンなどを使うことができないホストへの対策

- ・中間支援組織によってインターネット予約や受付などを代行

### ▶ サービスの安全・安心の確保

- ・トラブル等に迅速に対応するため、警察署や消防本部とホスト情報を共有

### ▶ 法律や条例との整合性の確保

- ・住宅宿泊事業とイベント民泊の取組前に、飛騨保健所へ相談と確認

### ▶ シェアリングの拡充

- ・民泊のみにとらわれず、提供できるスキル(アユ釣り体験、川魚の串刺し、おはぎ作り等)を拡充し、地域住民との交流拡大を目指す



◆スキルシェアによる魅力増幅

- ・釣りの中でも難易度が高めのアユ釣りを体験
- ・なんの装備も無くても、地元の人たちが丁寧に教えてくれる。

## 取組の成果

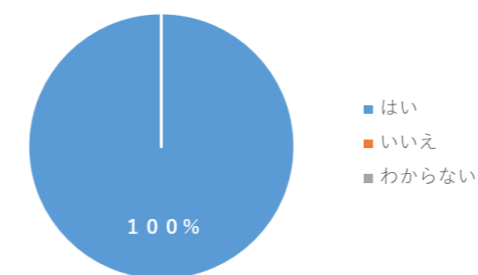
- ・民泊モニター体験会には、6軒のホストの自宅に19人が参加し、そのうち4軒が住宅宿泊事業法にのっとった営業に至った
- ・イベント民泊を2軒が行い、7人のゲストが訪れて、バザーの裏方などのお手伝いによって交流を深めた
- ・ゲスト側は「また来たい」という意見が100%。住民もこの地域が観光コンテンツとなりえる感触をつかめた

### 民泊サービス提供者(ホスト)の声

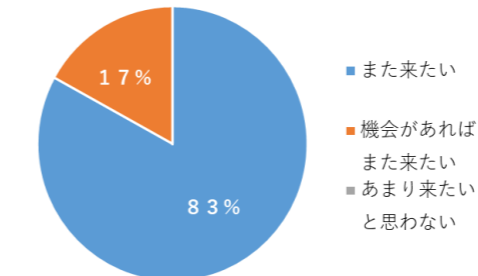
旧宮川村杉原地区は、こういう過疎地になっていくのでね。民泊は、集落が生き残る一つの方法かなと思ったんです。若い人がこういう集落に来るきっかけになればいいですね。(松永さん)

実際に民泊のホストを体験してみて、若い方とたくさん話ができ、にぎやかで楽しかったです。でも、知らない人を誰でも泊められるわけではないとも感じました。夫婦で子どもを連れて家族、そんな人が来てくれたらやっていけるかなあ。そんな人が楽しめる民泊ならいいなあと思いました。(荒木さん)

ホストに会いに行きたいか n=18



また飛騨市に来たいか n=18



### 今後の展望

- ・中間支援組織への地域住民の取り込み及び事業の地域主体化
- ・スキル提供者の増加による観光コンテンツと交流人口の増加
- ・第2の故郷となるような、ヒトとヒトとのつながりによるファンの増加